

(19)日本特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-127554

(43)公開日 平成6年(1994)5月10日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 33/02		6916-3E		
33/36		6916-3E		
// B 6 5 B 3/18				

審査請求 有 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平4-278250

(22)出願日 平成4年(1992)10月16日

(71)出願人 000106106

サラヤ株式会社

大阪府大阪市東住吉区湯里2丁目2番8号

(72)発明者 更家 一郎

大阪府大阪市東住吉区湯里2丁目2番8号

サラヤ株式会社内

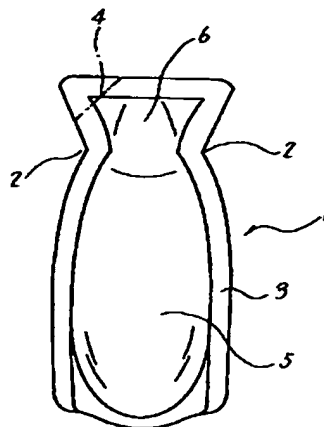
(74)代理人 弁理士 森本 義弘

(54)【発明の名称】 液体収納用袋

(57)【要約】

【目的】液体詰め替え時における袋の型崩れを防止することを目的とする。

【構成】内部に洗剤などの液体が収納される合成樹脂からなる袋1を立てた状態において上下方向中央よりやや上方位置で袋1の両側間を近づけてなるくびれ部2、2を両側に形成してなり、袋1から液体を取り出すとき、袋1内の液体は幅の狭いくびれ部2、2間で液体の移動量が規制されながら液体取り出し口側に移動し、液体取り出し口側の液体は常に少量を保ち、液体取り出し口側に移動した液体の重量で袋1の中央が折れて型崩れが生じるのを防止するようにした。



1---袋
2---くびれ部
3---ヒートシール部
4---切り口部
5---主室
6---側室

BEST AVAILABLE COPY

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 内部に洗剤などの液体が収納される合成樹脂などからなる液体収納用袋であって、この袋を立てた状態において上下方向中央よりやや上方位置で袋の両側間を近づけてなるくびれ部を両側に形成してなることを特徴とする液体収納用袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、洗剤などの液体を収納する液体収納用袋に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来から家庭などで使用される洗剤などは合成樹脂製の容器に詰められて販売されているが、例えば容器内の洗剤がなくなると合成樹脂製袋の中に入った詰め替え用洗剤を購入し、この詰め替え用洗剤を空の容器内に詰め替えていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来から知られているこの種詰め替え用洗剤などの液体が収納された合成樹脂製袋の殆どは正面から見て矩形を呈し、液体を袋から取り出して空の容器内に詰め替えるとき、袋の上端の1つの角部を鋏などでカットして液体取り出し口を形成した後、袋を手持って作業を行っていた。

【0004】このような詰め替え時に前記カットにより形成された液体取り出し口を下に向けるために袋の下端側を手持って袋を傾けると袋内の液体が下に向く側に移動して、その移動した液体の重量で袋の中央が折れるという型崩れが生じ、その結果液体取り出し口の位置が変わり、液体が容器の外にこぼれたりして詰め替え作業がスムーズに行なえないという問題があった。

【0005】本発明はこのような課題を解決するもので、液体詰め替え時における袋の型崩れを防止することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記問題を解決するために本発明は、内部に洗剤などの液体が収納される合成樹脂などからなる液体収納用袋であって、この袋を立てた状態において上下方向中央よりやや上方位置で袋の両側間を近づけてなるくびれ部を両側に形成してなるものである。

【0007】

【作用】上記構成により、袋から液体を取り出すとき、袋内の液体は幅の狭いくびれ部間で液体の移動量が規制されながら液体取り出し口側に移動し、液体取り出し口側の液体は常に少量を保ち、液体取り出し口側に移動した液体の重量で袋の中央が折れて型崩れが生じることがなく、液体が容器の外にこぼれたりすることなく詰め替え作業をスムーズに行なうことができる。

【0008】

【実施例】以下、本発明の一実施例について、図面に基

2

づいて説明する。図1～図3において、1は内部に詰め替え用洗剤などの液体が収納された所謂スタンドバックと称する自立型の合成樹脂製袋で、袋を立てた状態において正面から見て上下方向中央よりやや上方位置で袋1の両側間を近づけてなるくびれ部2、2が両側に形成されている。3は袋1の周囲のヒートシール部、4は袋1を立てた状態において上端の1つの角部に設けられた切り口部で、この切り口部4を鋏などでカットして液体取り出し口が形成される。

10 【0009】上記構成において、袋1内の液体を取り出すときは前記切り口部4を鋏などでカットして液体取り出し口を形成した状態で図3に示すように液体取り出し口が下に向くように袋1を傾け、袋1内の液体を取り出すのであるが、液体取り出し口が上に向いた状態でくびれ部2、2よりも下の主室5に入っていた液体はくびれ部2、2間を通過して液体取り出し口側の副室6に移動し、液体取り出し口から取り出される。このとき副室6よりも主室5の方が大きく、しかも液体の移動通路がくびれ部2、2で狭められているため、主室5内の液体は一度に副室6に移動するのではなく、幅の狭いヒートシール部3、3間で液体の移動量が規制され、副室6に移動する。この結果、液体取り出し口側の副室6内の液体は常に少量を保ち、副室6に移動した液体の重量で袋1の中央が折れて型崩れが生じることがなく、液体が移し替え用容器7の外にこぼれたりすることなく詰め替え作業をスムーズに行なうことができる。

20 【0010】なお、袋1は下端部が膨らんだ所謂スタンドバック状のものに限定されるものではなく、4辺の縁が線状となって厚みを持たない形状のものでも良い。また、前記袋1は内面に合成樹脂フィルムが装着されたアルミ箔で作られたものでも良い。

【0011】

30 【発明の効果】以上のように本発明によれば、袋から液体を取り出すとき、袋内の液体は幅の狭いくびれ部間で液体の移動量が規制されながら液体取り出し口側に移動し、液体取り出し口側の液体は常に少量を保ち、液体取り出し口側に移動した液体の重量で袋の中央が折れて型崩れが生じることがなく、液体が容器の外にこぼれたりすることなく詰め替え作業をスムーズに行なうことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例における液体収納用袋の正面図である。

【図2】同断面図である。

【図3】同液体取り出し時の状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

1 袋

2 くびれ部

3 ヒートシール部

40 4 切り口部

(3)

特開平6-127554

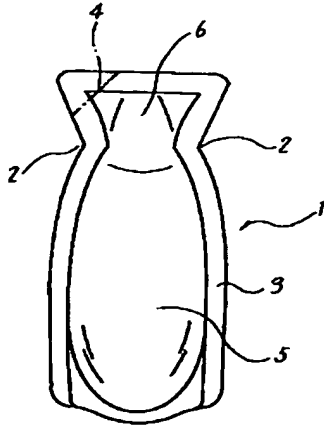
5 主室

3

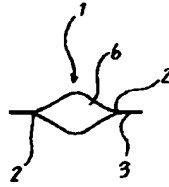
6 副室

4

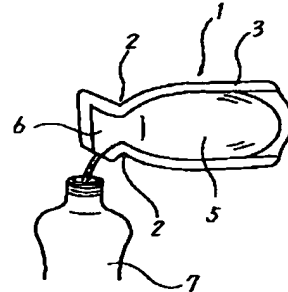
【図1】



【図2】



【図3】



- 1---袋
- 2---くびれ部
- 3---ヒートシル部
- 4---切り口部
- 5---主室
- 6---副室